

2023 年度 第4回 藤沢市立御所見中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2023 年 12 月 6 日（水） 15 時 00 分～

場 所 藤沢市立御所見中学校 図書館

【学校運営協議会委員（コミュニティ・スクール）】

1	会長	大井 秀幸	ふれあい共生ネットワーク（三者連携）代表
2		鈴野 達也	青少年育成協力会（青少協）代表
3		吉田 康行	御所見中学校 PTA 会長
4		加藤 宏章	元御所見中学校 PTA 会長
5		森 祐一（欠席）	元御所見中学校 PTA 会長
6		角田 宗夫（欠席）	元御所見中学校評議員、元藤沢市立中学校長
7		鈴木 理恵	元御所見中学校評議員
8		佐藤 孝子	御所見地区民生員
9		須藤 和久	御所見市民センター長
10		坂本 哲也（欠席）	CSW、市社会福祉協議会
11	副会長	中岡 正春	御所見中学校・校長
12		荒船 友樹	御所見中学校・教頭
13		小川 直美	御所見中学校・地域担当
14	傍聴人	山本 亜矢	ココロまち診療所 アロマ&ハーバルセラピスト
15	傍聴人	伊豆内 雅之	藤沢市教育委員会総務課

1. 開会（会長あいさつ）

今年から、ユースデイを例年通りの規模で実施。中学生のボランティアがとても良く動いてくれた。保護者の方もとても協力してくれていた。とてもいい時間になったから、これからは、もっと子どもが中心になる活動を目指したい。おとなに見守られて子どもたちがのびのび活躍できる地域にしましょう。

2年目を迎えているコミスク。今年度は御所見小、来年度は中里小のコミスクも始まり、どの学校も手探りをしながらも少しずつ動き出している。不登校への対応を模索する学校が増えているが、学校に来ている生徒のことも見逃さないように、広い視野をもって活動を考えていきたい。

2. 御所見中学校近況報告

11月は地域での活動がたくさんあった月。地域の中にいる子どもたちの様子。学校で見せるものとは違う表情が見られた。そのような場が増えるよう、活動の枠を広げていきたい。

12月になり、1学年は八ヶ岳への準備が始まり、3学年は進路に向けての準備が佳境に入るなど多忙を極める日々である。それに加えて工事も入っているため、生徒たちもたくさんの我慢をして毎日を送っている。

また、コロナ休校以降激増する不登校生徒に対しての対応も急務であると考えている。

3. 地域事業紹介

〔ココロまち診療所 山本さん〕

5年前に用田で開業した地域の訪問診療を基本とする病院。予約制で週2日の外来も行っている。地域の方々にとってホッと一息つけるような場所を目指しており、診察に来た人だけでなく、他の人も楽しめるようにキッチンカーを招いたり、ワークショップを開くなど、いろいろな企画をしている。

あくまで診療所なので、見学などを希望する場合は事前に電話で確認してくれるとありがたい。

4. 学校運営の課題と解決策 〔校長〕

【伝達講習】

『課題を抱える生徒支援の充実に向けて』～不登校生徒への対応の在り方について～

〔2023年度 藤沢市立中・特別支援学校 校長会研究発表より〕

- ・不登校理由について、学校からとったアンケート結果と生徒・保護者からとったものでは差がある。より多角的な視野からの情報を精査することによって、有益な対応案が見つかるかもしれない。不登校は、見過ごせないほど増加している。その分多様化も進んでいるので、一通りの対応策では追いつけないと思う。
- ・“不登校＝家に引きこもる”にならないようにする必要がある。第2、第3の居場所づくりが必要。昔で言えば、家事や生活を通じて学ぶことがあったようにも思うが、学校や家以外でも何らかの経験を通じた学びの場が必要だと考える。それらの経験を通じて、学ぶことの必要性に気づいたり、興味・関心が広がることにつながることに期待したい。
- ・そこに行くと元気になる。その人に会うと元気になる。そんな場所やおとながたくさんいる地域になるといいですね。
- ・学校の先生たちには、学校に来ている生徒たちにしっかり向き合って欲しい。その分、学校に来ていない生徒たちを受け止める場所を地域に増やしていけたらいいと思う。
- ・学校に行きたくない子どもに対して、学校に行きなさいは酷だし、多様性を認める今に合っていない。親が「じゃあ、どこに行きたい？」と、行ける場所が一通りではないという視点を持ち、外に連れ出してあげることも必要。
- ・御所見地域は比較的不登校が多い地域であるが、「休んでもいいよ」と言ってあげられる家庭が多いという見方もできる。
- ・時代が変化し、子どももおとなも変化している。お互いに、自分の経験を元にしてもうまくいかないことが増えている。“そういうこともあるのか。”“そういう捉え方をするのか”と、自身をアップデートし続けることが必要。
- ・『生きづらい』と感じる原因として考えられることが2つある。1つは、発達特性で感じている。これは、社会の理解が追いついていないため、対応が遅れていると考えられる。もう1つは、親子関係。過干渉や指示の出し過ぎによって、人の声を気にしすぎてしまうようになり、つらくなってしまう。しかし、これは親が“知らないからやってしまう”から起きている。大人にとっても、いろいろな人と関わることは大切である。
- ・子どもに関われるおとなが、いろいろな関わり方が出来る地域はいいと思う。それを、大人同士で共有できる地域になればもっといいと思う。コミスクがそういう場に拡大していけたらいいかも。

5. その他

●御所見中 樹木選定計画について

御所見中には、サクラ、イチョウ、スギなど多くの木が植わっている。今では、それが年月を経て大きくなり、枝が敷地外に出たり、落ち葉で近隣に迷惑をかけたりしている。そのため、剪定が必要となっているが、長い歴史のある学校であるため、地域のみなさんの思いも踏まえて作業計画を立てたいと考えている。みなさんのご意見をうかがいたい。

- ・サクラは残して欲しい。
- ・月日とともに変化が生じるのは当然のこと。在学生にとっての安全が優先されるべきなので、大規模な剪定も仕方ないと思う。

●次年度のコミスク運営について

現委員には、後日次年度の人選について意向を伺うアンケートを送ります。

●市教委より

現在、委員を引き受けてくれる人が少なく困っている。市教委では、小中合同で運営が出来るように検討している。

●次回の会議日程

第5回 2月28日（水） 15：00～ 御所見中学校 3階 図書室
